

## 総合的な学習の時間「住みたいまちづくりプロジェクト」 10年後も住みたい府中町を創造しよう！

### 本単元で育成する資質・能力

課題発見力 他と関わる力 自ら行動する力

- ◇ 日 時 令和4年10月19日（水） 5校時
- ◇ 学年・組 第3学年6組 36名

### 単元について

#### ◇単元観

本校では、総合的な学習の時間の3年間を通じた「本質的な問い」を「10年後も住みたい府中町であり続けるには」と設定し、地域に関わる学びを「探究・椿」、自らの生き方に関わる学びを「探究・志」として、10年後府中町に貢献できるようになるための学びを進めている。

本単元は、本校の総合的な学習の時間の2本柱のうち「探究・椿」に位置するもので、第3学年において「住みたい町プロジェクト」として10年後も住みたい府中町であり続けるために、中学生としてどのようなことができるか考え、実行するというものである。「探究・椿」では、第1学年時の始めに、小学校での学びを思い出しながら現在の府中町の課題を出し合い、その中から防災と平和について注目し「地域貢献プロジェクト」として自分たちにできることを考え体験してきた。第2学年の「地域交流プロジェクト」では、府中町をより良い街にするために修学旅行先の長崎で学びたいことをテーマに自主研修のテーマを決め、インタビュー活動や調査を行い、府中町に還元できることを発見してきた。これらの学びを基盤として、第3学年では具体的に府中町で実行できる企画を考え、提案できるようになることを目指している。

「住みたい町プロジェクト」の本質的な問いを「10年後も住みたい府中町とはどのような町だろうか」とし、単元を貫く問いを「持続可能な府中町のために、今どのようなことが必要なのだろうか」とした。これらの問いに対して、探究的な見方・考え方を働かせて、解が一つではない問いに対してPBLの手法を用いて生徒自身が学習過程を構成できる単元となっている。また、単元を通じてSDGsの視点を持ち考えさせる取り組みも取り入れ、常に持続可能な町づくりという視点で生徒自身が学びを進めることによって、本校で設定している育成したい資質・能力の育成を図ることをねらいとしている。さらに、スライドの効果的な作成方法や紙芝居プレゼンテーション（KP法）などについて学び、聞く人や年齢に応じて活用できるよう単元を構成している。

#### ◇生徒観

令和4年度全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」で、次の項目において肯定的に回答した生徒の割合は次の表のようになった。

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	88.2%
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。	83.8%
1, 2年生のときに受けた授業の中で、自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	50.5%
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。	44.2%

仲間と話し合い、自分の考えを深める主体的で協働的な活動が出来ている生徒が多く（83.8%）、課

題を見出し解決に向けて取り組む探求的な学習をしようとしている生徒も多い（88.2%）。総合的な学習では発表する場面をできるだけ多く設定してきたが、自分たちの考えがうまく伝わるような工夫をしている生徒は半数であった（50.5%）。また「10年後も住みたい府中町であり続けるには」という3年間を通じた「本質的な問い」を設定し取り組んでいるが、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と答える生徒の割合が低く（44.2%）課題である。これは、それぞれの課題が自分事として捉えられていないのと同時に、それぞれの活動や学びがそれらの課題と結びついていないと考えられる。

#### ◇指導観

指導に関して、本学年の生徒は第1学年時からプロジェクトに対して全体で課題を出し合った後は、立候補で集まったメンバーで構成する「総合リーダー」たちが、その意見を集約し学びの方向性を決め進めていくという方法を取っている。今年度もその方向性をもとに、生徒一人一人が探究したいテーマを選択しその内容でクラスを超えたチームを編成し、そのチームで生徒自身が主体となって探究を進めている。

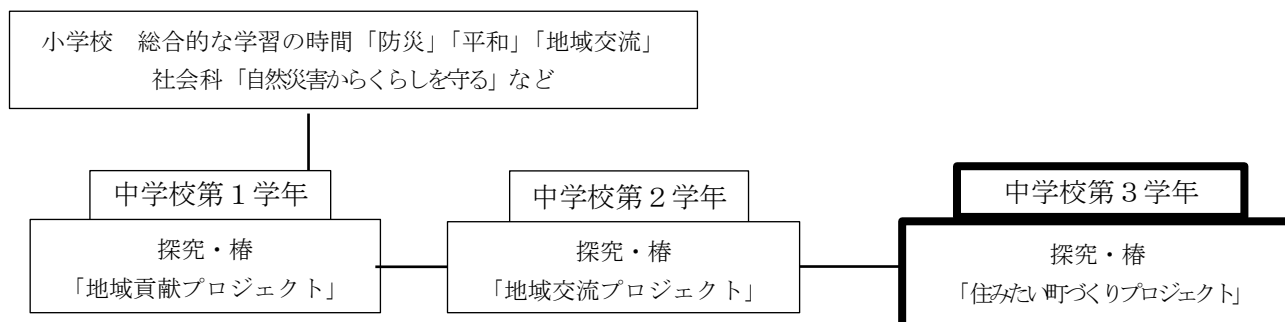
今年度も、「10年後も住みたい府中町を創造する」ために、昨年度末実施した修学旅行の取組をもとに府中町で実践したい企画を個人で立案し、それをプレゼンテーションして仲間を募り、チームを決定した。そのチームで、再度企画を練り直し、提案、実践できるように進めていった。その際、ルーブリックをもとに本時において身につけたい資質能力を意識させ、チームごとに毎時間めあてを設定し振り返りを行い確認させるようにした。

企画・立案においては、企画全体が見通せる探究計画書をチームごとに作成することで、見通しを持たせると同時に教師が動きを把握できるようにした。また「中間報告会」を行い、企画内容や方向性について、校外の方から具体的なアドバイスをいただく場を設けた。アドバイザーには生徒たちの希望をもとに地域の様々な分野で活躍しておられる方をお願いをした。そのアドバイスをもとに、内容を修正、改善し、校外の企業や団体と交渉し、企画を実行させた。依頼先との交渉については、実際の依頼の緊張感と受けていただいた時の達成感、断られた時のその後の対応を体感するために、教師による事前打合せなしに、最初の交渉を生徒に行わせた。

また、実行した企画内容を広く知ってもらい内容を高めていくために、活動内容を報告したり体験したりできる「椿フェスタ」を開催する。このフェスタの運営は前述の総合リーダーが行いこれは、アドバイスや協力いただいた企業の方、保護者に呼び掛けて開催する。ここでは、自分たちの企画が持続可能で、さらに発展できるよう1、2年生に呼び掛けていくこともねらいとしている。

単元の終末には、3年時の取組みだけではなく、3年間を通しての問いである「10年後も住みたい府中町であり続けるには」に対して、取り組んで考えてきたことを振り返る。そして、「10年後にどんな府中町だったら住みたいか」を創造し、そんな府中町を実現させるために自分自身がどのような貢献をするか、そのためにどのような力をつけなければならないかを自分自身で考える時間を設定する。そして、学年末には「探究・志」において総合的な学習の時間のまとめとして10年後の府中町を作るための志をまとまりのある文章で表現することを設定している。

### 指導の系統



**本時の学習 (35 時間目 / 全 36 時間)**

◇本時の目標

「探究・椿」の3年間の取組みを振り返り、「10年後も住みたい府中町であるために」今後自分は府中町に対してどんな貢献をしていくか考えることができる。

◇学習の流れ

学習活動	指導上の留意点 (◇) 予想される生徒の反応 (・)	評価規準 資質・能力 (評価方法)
<p>1 「椿フェスタ」の取組の振り返りをする。(5分)</p> <p>2 めあてを確認する。</p>	<p>◇フォームで「自分たちがやってきたことは府中町に貢献できる内容であっただろうか」という問いに答えさせる。 →結果をその場で見せる。 来場者のアンケート結果も見せる</p> <p>◇フォームで「みんなが取り組んだ企画は10年後も社会に貢献でき、誰かを幸せにしたり持続可能な社会にしたりするものだろうか。」という問いに答えさせる。 →結果をその場で見せる。</p> <p>本時でめざす姿をループリックを使って生徒と一緒に確認する</p>	
<p>めあて 自分たちの取組みを振り返り、10年後の府中町のために自分にできることを考える。</p>		
<p>3 班内で各グループの活動を共有する。</p> <p>発表準備 (5分) 発表 (10分)</p> <p>4 来場者アンケートの結果を見る。(2分)</p> <p>5 価値のある(社会に貢献する、幸せにする、持続可能な社会にする)活動とはどんなものか考える。(10分)</p>	<p>◇企画を考えた理由を中心にキーワードでA4 1枚にまとめさせる。</p> <p>◇「みんなが取り組んだ企画は10年後も社会に貢献でき、誰かを幸せにしたり持続可能な社会にしたりするものだろうか。」 →来場者のアンケート結果を見せる。</p> <p>◇自分たちの結果と保護者の結果のズレに気づかせる。</p> <p>◇価値のある活動とはどんなものか考え、ジャムボードに打ち込ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみを減らせる企画</li> <li>・循環型の取組み</li> <li>・生活を豊かにするもの</li> <li>・歴史や伝統に関わるもの</li> <li>・平和に関する取組み</li> </ul>	

<p>6 自分事として考える。</p> <p>(1)「10年後も住みたい府中町」とはどんな町か考える。</p> <p>(2) 理想の府中町を作るために日々の生活の中で自分は何ができるか考える。</p> <p>(3) そのために必要な力について考える。</p>	<p>◇ジャムボードを参考にして、自分が10年後に住みたい理想の府中町を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの少ない府中町</li> <li>・子育てのしやすい府中町</li> <li>・伝統文化を大切にする府中町</li> </ul> <p>◇理想の府中町を実現するために取り組むことをできるだけ沢山書かせる。</p> <p>価値あるものを守ったり作ったりするために自分が取り組むことを具体的に書かせる。</p> <p>企画を継続することでもよいし、新しい取り組みでもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの子どもたちに読み聞かせをする。</li> <li>・ごみを分別する</li> <li>・量り売りで買う</li> <li>・地域の民話を調べる。</li> </ul> <p>◇価値あるものを生み出すために必要な力を書き出させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の話を聞く力</li> <li>・人とつながる力</li> <li>・発信する力</li> <li>・継続する力</li> </ul>	<p>活動を振り返り、クラスでの意見をもとに、課題を自分事としてとらえその理由を明確にし、「今自分は何をするか」を具体的に考えることができています。</p> <p><b>【自ら行動する力】</b> (ワークシート)</p>
<p>7 振り返りをし、今後の活動の見通しを持つ。(5分)</p>	<p>◇「今自分は何をするか」を次回書くことを予告する。</p>	

**本時のルーブリック（関連する資質・能力）**

	<p>ウ) ACT:自ら行動する力 自己決定する/より良い策を見つける (主体的に学習に取り組む態度)</p>
S	<p>・活動を振り返り、これまで学習したことやクラスでの意見をもとに、課題を自分事としてとらえ、その理由を明確にし、「今自分は何をするか」を具体的に考えることができています。</p>
A	<p>・活動を振り返り、クラスでの意見をもとに、課題を自分事としてとらえ、その理由を明確にし、「今自分は何をするか」を具体的に考えることができています。</p>
B	<p>・活動を振り返り、課題を自分事としてとらえ、「今自分は何をするか」を考えることができています。</p>

## 板書計画

めあて：自分たちの取組みを振り返り、10年後の府中町のために自分にできることを考える。

自分たちがやってきたことは府中町に貢献できる内容であっただろうか

みんなが取り組んだ企画は10年後も社会に貢献でき、誰かを幸せにしたり持続可能な社会にしたりするものだろうか。

価値のある（社会に貢献する、幸せにする、持続可能な社会にする）活動とはどんなものか

課題や、必要なことを書きだそう。

「10年後も住みたい府中町」とはどんな町か。

理想の府中町を作るために日々の生活の中で自分は何ができるか

第3学年 総合的な学習の時間 単元構想図 (全36時間)  
住みたい町づくりプロジェクト  
10年後も住みたい府中町を創造しよう



10年後も住みたい府中町とは  
どのような街だろうか

10年後も住みたい府中町であり続けるためには、  
何が必要だろうか。

単元目標

10年後も住みたい府中町であり続けるために、自分たちでできることを考え、地域の人と連携しながら、提案、実行できる。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習取組態度
自分の考えを表現したり、相手の意見を尊重したりしながらよりよい解決方法を模索し、仲間と協働的に活動することができる。	考えたことを、相手意識をもってまとめ、わかりやすく伝えることができる。	地域の良さと課題を知り、持続可能な街づくりとは何かを考え、地域の人々とながら中学生の視点で貢献できることを考え、提案することができる。

小単元のゴールに対するルーブリック

小単元のゴール		
SDGsの視点を参考にしてさまざまな側面から地域の現状における課題を取り上げ、その課題を解決するための提案をする力を身に付ける。		
課題発見力	他と関わる力	自ら行動する力
S 地域の良さと課題を知り、持続可能な街づくりとは何かを考え、地域の人々とながら中学生の視点で貢献できることを考え、提案、実施することができる。	考えたことをまとめ、相手意識を持って発表方法を工夫し、わかりやすく伝えることができる。複数の根拠を提示して、論理的に相手を説得することができる。	複数の視点から現状を把握し、より良い解決方法を創造し、仲間と協働的に活動することができる。
A 地域の良さを知り課題を発見し、持続可能な街づくりとは何かを考え、地域の人々とながら中学生の視点で貢献できることを考え、提案することができる。	考えたことをまとめ、相手意識を持って、わかりやすく伝えることができる。根拠を明確にして、論理的に相手に説明することができる。	現状を把握し、解決方法を創造し、仲間と協働的に活動することができる。
B 地域の良さと課題を知り、中学生の視点で貢献できることを考え、提案することができる。	考えたことを、まとめ、伝えることができる。自分たちの思いを相手に説明することができる。	現状を把握し、解決方法を創造し、活動することができる。

他教科等及びSDGsとの関連

- 〈国語科〉「話す・聞く」「書く」
- 〈社会科〉「現代社会の特色と私たち」「これからの人権保障」「国際社会の仕組み」「これからの経済と社会」「様々な国際問題」「これからの地球社会と日本」
- 〈美術科〉
- 〈保健科〉「健康な生活と疾病の予防」「健康と環境」
- 〈英語科〉「The Story of Chocolate」「The Great Pacific Garbage Patch」
- 〈道徳〉
- 〈SDGs〉



4 持続可能な府中町の実現のために行動しよう(12)

- 「椿フェスタ」を開こう(表現)  
(グループ) 思 行動観察・ワークシート
  - ・企業の人に採用してもらえるようにわかりやすく説明するぞ。
  - ・採用してもらうにはどうしたらよいか。
  - ・たくさんの人に知ってもらうにはどうしたらいいかな。
  - ・より持続可能な取り組みにするためには、どうしたらよいか。

○私たちにできることは何だろうか(分析,まとめ)  
(本時1/2)

- (全体→個人) 思 行動観察・ワークシート
- ・10年後はどんな府中町になっているだろう。
- ・自分が府中町に貢献できることは何だろうか。
- ・実現するためにどんな力が必要だろう。

○実現に向けて取り組もう。(全体) 知 行動観察・ワークシート

- ・アドバイスを試してみよう。
- ・もっと別の情報を付け加えてみよう
- ・練習してみたいな。
- ・学校内で試してみよう。

3 実行・提案しよう(7)

○実行可能性があるか検証しよう。(中間報告会開催)

- (全体) 知 行動観察・ワークシート
- ・誰かの意見を聞いてみたいな。
- ・もう少し専門的な話を聞きたいな。
- ・別の方法で試してみたいな。
- ・不十分なところをよくして、もう一度提案しよう。

2 提案内容を考えよう(11)

○どのように進めれば、実現するだろうか(計画書作成)

- (グループ) 思 行動観察・ワークシート
- ・誰に提案したらいいだろう?
- ・〇〇までに試作品を作ろう

○持続可能な府中町の実現のためにどのようなことが必要だろうか(情報収集)

- (個人→グループ) 思 行動観察・ワークシート
- ・多くの人が共感してくれる内容とはどんなものだろう。
- ・どうやったら府中町に人が来てくれるかな。
- ・今、府中町で困っていることは何だろう。
- ・10年後、府中町に必要なものやことは何だろう。

○SDGs方程式を作ろう(体験)思(1)ワークシート

- ・自分がSDGsの視点で行動するとどんな世界になるのだろうか。
- ・自分はSDGsの視点でどんなことができるだろう。
- ・どの色の使い方がわかりやすいかな

○OKP法でプレゼンしよう(体験)思(1)ワークシート

- ・どんな言葉がインパクトがあるかな
- ・どの色を使って書けばいいかな
- ・レイアウトはどうすれば見えやすいかな。
- ・話の流れはわかりやすいかな。

1 課題設定(6)

○今までの学びを整理しよう(情報収集・新たな課題発見)

- (全体) 知 行動観察・ワークシート
- ・災害に強いまちづくりが必要だな。
- ・人口が多い街なのは、どんな理由があるのだろうか。
- ・どんなものがあったら住みたいと思うだろうか。
- ・府中町の改善しなければいけない課題は何だろう。

○修学旅行の学びを共有しよう。(情報収集・分析)

- (個人→全体) 知 行動観察・ワークシート
- ・修学旅行先から街づくりの視点で府中町に生かせることはないかな。
- ・この長崎での取り組みを府中町でできないかな。